慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	米価調節審査会の設置に就て（完結）
Sub Title	
Author	高城, 仙次郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1915
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.9, No.11 (1915. 11) ,p.1318(114)- 1335(131)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19151101-0114

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

米價調節審査會の設置に就て（完結）

高城仙次郎

目次

七、米價の一時的下落の影響
八、米價の永久的下落の影響
九、米價の將來
十、米價調節の當否
十一、一時的激變の豫防法
十二、永久的調節法
十三、結　言

七　米價の一時的下落の影響

前二項に於て吾人は米價の一時的並に永久的騰貴の影響を略論せしが、本項に於ては轉じて米價の一時的下落が農家、都會に於ける米の需用者並に一般商工業に對して如何なる影響を及ぼすに至るやを討究せんと欲す。云ふ迄もなく米價騰貴の際に於けると同じく、下落の際にも其結果が下落の程度に依りて異なる可きものなれば、第五項に於けるが如く、米價が稍々（例へば一割）下落せし時と、米價が暴落（例へば五割）せしときとの影響を別々に說述せんと欲す。

一割下落せし時。米價が一割下落せりとするも、自足農並に准自足農は影響を蒙むること尠少なる可し。如何となれば、此等の階級に屬する農家は吾人の假定に依れば市場に供給す可き米穀を有せざる者なるが故に、其市價の下落の爲め大なる痛痒を感ずることあらざるを以てなり。加之、准自足農中には其不足米の購入費が米價の下落の爲め減少するの結果、却つて多少の利益を蒙むる者もある可し。されど、市場に米穀を供給する營利農は之に反して米價下落の爲め多少の損失を蒙むるに至る可し。（此損失の程度が米價下落の程度に比例す可きは勿論のことなりとす）。若し果して然らば、翌年度の米作は此等營利農の手控の爲め多少の減收を來すことある可し。

翻つて米價が稍々下落せしとき都會に如何なる影響を來す可きか。前述の如く營利農の收益減少するとせば、此階級の消費する貨物の需用は自ら減退するに至る可し。其需用減退の程度が奢侈品に於て最も甚だしくして、日用品に於て最も輕微なるは吾人の贅言を要せず。而して一方都會に於ける米穀の需用者は米價の輕微なる下落に依りて益する所少かる可し。如何となれば、假りに五人の家族を有する一家が一ヶ年白米の購入費として七十五圓（一石の市價十五圓として五石を消費するものと看做す）を支出せる際に、米價が一割下落せりとせば、一ヶ年間に七圓五十錢を節約するを得れど、普通白米は消費するに從ひ少許宛購入せらるゝものなるを以て、一ヶ月の節約高は僅かに八十錢内外にして、殆んど白米消費者の意識に上ることなかる可く、從つて米價が一割下落せりとて、特に夫れに基づく節約高を以て他の貨物の購買する者多からざる可し。若し果して然らば、都會の住民に對する米穀以外の貨物の販賣額は米價の輕少なる低落に依りて多大の影響を蒙むるが如きなしと看做すことを得るならん乎。

因是觀之、米價の輕微なる（例へば一割）の下落は結局一般商工業界の景氣に對して些細の影響を與ふるに過ぎざる可し。如何となれば、營利農收益の減少は貨物の需用を多少減退するの傾向を有すると同時に、一方に於ては商工階級は白米購買に於て節約せる所を幾分か他の貨物の購入に充つ可きを以て、多少此傾向を緩和することある可きを以てなり。

米價の暴落せしとき。米價が之に反して暴落（例へば五割方）せりとせば、如何なる結果を

來たす可きか。惟ふに自足農並に准自足農に對しては米價の暴落は大なる影響を與へざる可し。米價が暴落せば、他の穀物の市價も亦甚だしく低落す可く、從つて此等自足農、准自足農中米穀以外の穀物を生産販賣する者ありとせば、是等は多大の損失を蒙むるに至る可きも、米價暴落の際には通常野菜果物等の需用の增加を伴ふものなるを以て、此等の貨物を副業として産出せる者は此方面に於ける所得の增加を以て幾分か雜穀の販賣に於て失ふ所を補ふことを得可し。

之に反して、營利農は米價暴落の爲め巨額の損失を蒙むる可く、少くとも從前の貨幣所得は激減するに至る可し。而して其結果は翌年度に對する手控となり、延ひて收穫に多大の影響を與ふることあるならんか。

翻つて都會に於て急激なる米價の低落が如何なる結果を呈す可きかと云ふに、上述の如く、自足農並に准自足農は孰れにしても單に輕微の影響を受くるに過ぎざるに反し、營利農の貨幣所得は激減するの傾向を有するを以て、都會の供給する種々の工藝品に對する是等營利農の需用も亦激減するに至る可く、殊に農夫の都市遊覽を目的とせる旅宿、其他の營業は一大打擊を蒙むるならん。

勿論一方米穀の需用者たる商工階級等は米價の暴落に依りて白米購入費を大に節約し得る結果、他の貨物を以前よりも多く需用するに至る可きを以て、營利農の需用減退は多少之に依りて中和せらるゝならんも、全く相殺せらるゝが如きことあらざる可し。論者或は農民の失ふ所は是れ即ち市民の利する所なるを以て、米穀以外の貨物に對する全國民の需用は何等の影響を蒙むる可きの理なきに非らずやと云はん。されど、吾人は農夫の大多數は通常收穫期より翌年春期迄の間に於て餘剩米を賣却するものにして中には收穫前に於てすら賣渡を豫約する者ありて、從つて營利農の貨幣所得は比較的少期間に入手せらるゝものなるに反し、米穀の需用者は一年間に亘りて時々必要に應じて之を購入するものなるの事實を記憶せざる可からず。故に、假りに一年間を平均せば、米價の暴落に依りて營利農の失ふ所と市民の節約する所とは略一致するの傾向を有するものなれど、或る一定の時期、殊に收穫期より兩三ヶ月の間に於ては營利農の失ふ所は同期間に於て市民の利する所とは大に懸隔ありて、此差額あるが爲めに、其期間に於ける製造品の需用を激減せしむるに至るものなりとす。而して此貨物需用の急激なる減退は貨物生産の收縮を釀し、其結果、原料並に勞働の需用の減少を誘致し、遂に吾人の不景氣と名くる一般産業界の病態を現出せしむるに至るものなりとす。勿論米價の暴騰が夏期に突發せりとせば、上述の如き現象を生ずること稀なり。如何となれば、夏期に於て農家が米穀を賣却すること稀なるを以て、其暴落が收穫後迄持續せざる限りは農家は多少の例外を除き左したる影響を蒙むることなかる可し。

八　米價の永久的下落の影響

米價は變動常なきものなれども、明治初年以來の傾向を觀るに、永久的に騰貴するの趨勢を持續せるが如くなるを以て、內外に於ける米穀の需用供給に一大變動なき限り、近き將來に於て從前の傾向を一變して永久的に下落するに至るが如きことあらざる可し。然りと雖も、米作地面積の增加又は生産方法の改良の爲め米産額の增進せる結果として、或は外國米の品質改良又は其價格の暴落の爲め外國米の輸入が頓に增加せるの結果として、或は又內地人の嗜好に變化を來し米の代りに小麥其他の穀物を常食として用ゆる者增加せる爲めに、假りに國內の米價が十九世紀中小麥の市價が下落せしが如く永久

的に漸次下落するに至るとせば、如何なる影響を我經濟界に及ぼす可きか、是れ次に吾人の知らんと欲する所なりとす。

惟ふに其影響は米價漸落の原因に依りて一樣ならざるならん。例へば、米價が耕作の改善に基づく產額の增進に依りて誘致せられたるものなりとせば、農民中此耕作法の改良を利用せる者は殆んど何等の影響を蒙らざる可し。如何となれば、此等の農民が米價の下落に依りて失ふ所は自家產額の增加に依りて償はるゝを以てなり。之に反して無智、頑冥又は無資力の爲め新耕作法を用ひざりし農民は從前と同一量の收穫を得るにも拘らず、其市價の下落せる爲め一大打擊を蒙むり、祖先傳來の田地を失ひ小作人となるか、或は全く轉業するの外なき窮境に陷ゐることなしとせざるなり。若し又米價の漸落が耕作地の增加に基づく產額の增進に依りて釀成せられたるものなりとせば、農民中最も不利なる狀態の下に於て米作に從事せる者は收支相償はずして鋤鍬を捨て算盤又は規矩を執らざるを得ざるに至るやも測られず。新開墾地は多少の勞働を吸收す可きは勿論なりと雖も、米價下落の程度が內地米の輸出を刺戟するに足らずして既往に於けるが如く內地米の殆んど全額が依然として國內に於て消費せらるとせば、農民中の一部劣等者は農業外に驅逐せらるゝに至る可し。されば米產額の膨脹が耕作法の改良に依りて誘致せられたるにもせよ、將た又耕作面積の增加に依りて釀成せられたるにせよ、之に基づく米價の漸落は一部農民の一時的困窮を釀し、此等の人をして遂に商工業界に走らざるを得ざらしむることある可し。若し果して然らば、都市に於ける勞働の供給增加して、賃銀を低落せしむるの結果を呈す可きも、米價の下落は多少賃銀の下落を償ふ可く、且つ其賃銀の低落は工業を刺戟するの効果を有するものなるを記憶せざる可からず。

次に米價の漸落が品質の改善又は價格の暴落に基づく多量の外米輸入に依りて誘致せられたるものなりとせば、此安價なる外米と競爭し得る狀態の下に耕作に從事せる者を除きては內地の農民は甚大なる打擊を蒙むり、英國の農業が小麥の下落に依りて衰微せしが如く、我國の農業、少くとも米作業丈は疲弊するに至ることなしとせざるなり。而して其結果は假令英國の如く我國を工業國化するに至らずとするも、獨逸の如く永久に安固なる食料品の獨立を維持すること困難なるに至らしむるやも知る可からず。最後に食物に對する我國民の嗜好が假りに推移して小麥を常食とする者輩出せる結果として、米價が漸落するの傾向を生じたりとせば、如何なる影響を實業界に及ぼす可きか。若し米の需用減少し、小麥の需用增加するに從ひ、農家が漸次米穀の代りに小麥を生產するとせば、我農業はさしたる影響を蒙らざるならん。されど、若し我國の風土小麥の生產に適せざる爲めに、小麥の需用額の大部分が外國より輸入せらるゝとせば、其影響は上文に於て論じたる多量の外國米輸入の結果と異ならざる可し。

九　米價の將來

前數節に於て吾人は米價變動が如何なる結果を呈す可きかを略論せしが、今や進んで其變動は之を自然の成行に任す可きものなるか、將た又其變動を未然に防ぎ以て之より生ず可き種々の弊害に對して豫防策を講ずるを可とするか、而して若し豫防策を講ず可きものなりとせば、如何なる方法が最も適當なるかを討究せんと欲するものなるが、此問題を論駁する前に先づ米價が將來如何なる變動を蒙むる可きかを推斷することを要す。如何となれば。米價の調節は將來の問題なるを以て、其調節策も亦將來の豫想米價を基礎として講究す可きものなればなり。蓋

し假令綿密周到なる調節策を案出するも、其方策の前提とせる將來の豫想米價が實際に遠きものならば、其研究は徒勞に屬するとこわる可し。

上文にも示したるが如く、（第七號百三十一頁）米價は年々多少の騰落ありて、其變動時に二三割に達することわり。左に明治三十三年より大正二年迄の米價變動率を示さん。

年次	米價	騰貴	下落	變動率
	圓	圓	圓	割
三十三	一一、三二			
三十四	一一、四七	〇、一五		〇、一
三十五	一二、〇七	〇、六〇		〇、五
三十六	一三、六八	一、六一		一、三
三十七	一二、八九		〇、七九	〇、六
三十八	一二、六六		〇、二三	〇、二
三十九	一四、四四	一、七八		一、四
四十	一六、〇二	一、五八		一、一
四十一	一五、二四		〇、七八	〇、五
四十二	一二、五四		二、七〇	一、八
四十三	一二、九三	〇、三九		〇、三
四十四	一六、八五	三、九二		三、〇
大正元	二〇、三七	三、五二		二、一
大正二	二一、〇一	〇、六四		〇、三

右表に據れば、十三年間に米價の騰貴せしこと九度、下落せしこと四回にして前年度に比して米價が一割以下變動せしこと七回にして、一割以上變動せしこと六回に上り、其中一度は二割騰貴し、一度は三割騰貴せり。

既往に於ける米價の變動は斯くの如く頻繁にして、又斯くの如く激烈なるが、若し過去に於ける吾人の經驗を以て將來を卜することを得るものなりとせば、人爲的に之を調節せざる限り今後も從前の如く一高一低常ならざる可し。

米價は斯くの如く一時的變動を免がるゝこと能はざるものなるが、將來の米價は過去に於けるが如く永久的に騰貴するの傾向を持續す可きか、將た又下落するの趨勢を有す可きか。勿論米價の永久的騰落は一般物價騰落の影響を蒙むるものなれば、一般物價が永久的下落せば、米價も下落し、一般物價が永久的に騰貴せば、米價も亦永久的に騰貴す可きも、茲に吾人の知らんと欲するは、一般物價の影響を離れて米價が米穀の需用供給の關係に基づく特種の原因の爲め永久的に騰貴するに至るか、或は下落するに至るかに在りとす。

米價の恒久的騰落を誘致する原因は云ふ迄もなく米穀の需用供給なれば、米價の將來を卜するには先づ此需用供給の關係を豫測するを要すれど、こは頗る難事たり。農學士西垣恒矩氏は其著『米穀經濟論』に於て大正元年より大正五十年に至る期間に於ける米穀の需用高と內國に於ける其收穫高とを推算して、需用に對する供給の不足を左の如く算定せり。（五六—九頁）

	消費豫想總額	總生產豫想額	不足米の豫想高
	石	石	石
大正元年	五三、三四〇、五九五	五〇、六九六、二四九	二、六四四、三四六
同　十年	六一、八〇四、七三四	五九、二一三、三四三	二、五九一、三九一
同　二十年	七一、四九二、二二三	六八、三一一、一一〇	三、一八一、一一三
同　三十年	八二、五七〇、五三三	七七、九八九、五五一	四、五八〇、九八二
同　四十年	九五、三二九、二四七	八八、二四八、六六六	六、九八〇、五八一
同　五十年	一〇九、六八二、九三三	九九、〇八八、四五五	一〇、五九四、四七八

されど、朝鮮並に臺灣は共に廣漠たる未墾の米作地を有するを以て、若し之を開墾せば、漸次朝臺米は內地に移入せらるゝに至る可く、從つて之を以て此不足を補充することを得可し。西垣氏は大正二十六年に於て此補充額は七、一九七、六〇六石に達す可きを以て、內地の不足額を補ふて餘りある可しと論ぜり。（同上書六〇—六三頁）

若し氏の推算にして誤謬なしとせば、我國に於ては將來米穀の供給は需用を充たして餘りある可く、從つて米價は下落するの傾向を有す可く、少くとも騰貴するが如きことわらざる可し。

然りと雖も、將來に於ける米產額は生產技術の發達、有利なる開墾地の廣狹、勞銀の高低、肥料の價格、金利の步合等幾多の未知數のみならず、米價其ものに依りても左右せらるるものなるを以て、從つて吾人は今日に於て正確に將來の米穀の收穫を豫想し且つ其影響を蒙むる可き米價の將來を卜することを得ず。

加之、是以外米價に影響を及ぼすものとして擧ぐ可きは外國米の輸入なるが、從來外米は內地米が騰貴せし時に於てのみ大規模に輸入せられたるに止まり、內地米の豐作なる年には殆んど輸入せらるゝことなきを以て、是れとても寧ろ內地米の價格に依りて支配せらるゝものなりと云はざる可からず。勿論英領印度並に米國デキサス等に於て將來米穀の產額激增し格外の廉價例へば一石四五圓の相場にて之を輸入することを得るに至らば、內地米の價格は暴落す可きも、英領印度、米國に於ける米產額は年々多少增加しつゝあるも、未だ斯かる廉價を以て海外に輸出するの餘裕を有せざるが如し。

更に常食品に對する本邦人の嗜好の推移して小麥を賞美し爲めに白米の需用減退し、其結果米價の下落を來たすこと絕無なりとは云ひ難けれども、最近十年間に於ける小麥の消費高の消長を觀るに、其增加は實に微々たるものなり。されば、近き將來に於て小麥が白米を驅逐するが如きことなかる可し。然りと雖も、若し米價が將來更に騰貴するが如きことあらば、小麥の需用增加し、其輸入を刺戟するに至るやも測られず。

要するに、若し自然の成行に放任せば、米價が將來に於ても過去に於けるが如く年々或は騰貴或は下落す可きことは豫知するに難からずと雖も、米價が爾今永久的に騰貴す可きか、或は低落す可きか、又騰貴若しくは下落するとせば其變動の程度如何は今日に於て之を卜知すること得ず、唯多少の變動あり得るものなりと云ふを得るに過ぎざるのみ。

十　米價調節の當否

前節に於て略論せるが如く、米價が將來一時的に暴騰暴落す可きは明かなる事實なるのみならず、同時に恒久的に漸落若しくは漸騰するやも測り難きものなりとし、且つ前數節に於て說述せしが如く其一時的暴騰暴落並に恒久的漸騰漸落が我國民經濟に及ぼす影響頗る憂慮す可きものありて、殊に前者が我實業界を攪亂し一般に不景氣を誘致するの虞れあるものなりとせば、吾人は之を未然に防遏するの方策を講ず可きか、將た又全く之を放任して自然の成行に任す可きか。

大隈內閣が今春米價調節を企圖せし時にも、亦去月米價調節調査會を設置して七十二名の委員を任命せしときにも、論客の多くは嘲罵冷笑を以て之を迎へ、米價調節を以て或は全く不可能なる事とし、或は又之れを不可能なりとせずとも無益有害なる干涉なりとして極力政府の提案を排斥せり。吾人も亦大隈內閣の今春試みし調節策の失敗に歸せしものあるを認め、且つ米價調節調査會に提出せし諮問案を以て必ずしも良案なりと思惟するものに非ず。然りと雖も、前數節に於て略論せしが如く、米價の激變は國民經濟を混亂せしむるの傾向を有するものにして、其惡影響に就きては何人と雖も之を憂ひざる者なきが如し。唯一派の論客の說に據れば、米價暴騰せば農家の收入增加す可く、從つて翌年度の耕作を刺戟するの結果、收穫增加して米價を下落せしむるに至る可く、又米價下落せば、其反對に其翌年度の收穫を減額せしめ延ひて米價を騰貴せしむるの結果を呈す可しと。勿論此所謂自然的調節は常に米價に於て行はるゝのみならず、他の總ての物價に就きても行はれつゝあるものにして、總ての貨物の供給を其需

用に適合せしむる自然の法則なりとす。されど此自然の調節が最も其妙味を發揮するは靴、傘衣服等年中間斷なく製出せらるゝ工藝品にして、米穀の如き年一二回產出するに止まる農產物に至りては其効果著しからずして、此種の貨物の需用と供給とが自然的に調節せらるゝには通例數ヶ年を要す。加ふるに、農業には工業の有せざる弱點の存するありて、天候の爲め時々其收穫の激減を來すことあり。是れが爲めに、過去に於て吾人の經驗せしが如き米價の暴騰暴落を來たすに至るなり。換言すれば農業は工業に比して天然の力に依りて左右せらるゝ所多きものなりとす。殊に我米穀は我國特有の貨物にして少くとも現今に於ては他の多くの貨物の如く輸出入の關係に依りて其需給を自然的に適合せしむるに困難を感ずるものなり。而かも、吾人は他の貨物の如く米穀の需給、從つて其市價の調節を自然に一任す可きか。

論者は又米價調節は既に過去に於て屢々試みられ其都度失敗せし歷史を有せしものして、大正の今日之を企圖する愚も亦甚だしと云はん。されど、吾人が上文に於て論せし如く米價の人爲的調節は決して不可能に非ずして、唯是れ迄夫れに失敗せしは其調節の方法當を得ざりしが故なり。然らば吾人は將來米價を人爲的に調節す可きか、而して若し之が調節を試みるとせば如何なる方法を用ゆべきか。

前述の如く米價は一時的にも又恒久的にも騰落するものにして、此兩種の騰落は多少共通の點もあれど各々特種の原因と結果を有するを以て、之に對して救濟策を用ゆ可きか、而して用ゆるとせば如何なる方法を採る可きかの問題も自ら各個に就きて之を討究すべきものなりとす。

先づ一時的騰落に就きて之を觀るに、最近に於けるが如く既に一時的に米價が激變せし後に之れが調節を試みるとし、其激變を未然に防遏するの方法を講ずるの別あり。吾人の觀る所に依れば、米價の變動を事後に救濟せんとするは當を得たるものにあらず。如何となれば、假りに米價が暴落せし際に人爲的に之れを吊上げ以て農民の窮窮を救はんとするも、其效果頗る疑はしければなり。蓋し米價が暴落せしときは既に當年の收穫の一大部分が商人の手に移りし後にして、米價引上策は徒らに米商を利するの結果を呈するに止まるのみならず、一旦收穫の全部を買却して其後必要に應じて自家消費用の米穀を購買する一部農民をして却つて餘分の負擔を負はしむるの傾向を有すべし。又假りに政府が引上策として米穀買上の方法を採るが如きことあらば、果して此方法が全國各地方に於て、又同一地方に於ても公平に行はるべきか、頗る疑問なりとす。假りに一歩を讓りて公平に調節策を行ひ得るとし、且つ其恩惠を受くる者が商人に非ずして農民に在りとするも、斯くの如き調節策は一方に於て自重心を有する農民の自負心を損じ、且つ又一方に於ては勤勉奮鬪の精心に缺如せる一派の農民をして益々事毎に爲政者に倚賴するの念を增長せしめ、延ひて彼等に對して遊惰怠慢を奬勵するの結果を呈すべきを以て彼れに得る所は是れに失ふ所を償ふに足らざるに至るやも測られざるべし。

されば、若し一時的騰落に對して救濟策を講ずべしとせば、宜しく事前に之を施して米價の變動を未發に防止するを以て當を得たるものなりとすべきか。而して事前に之を救濟する方法に直接的手段と間接的手段の別あり。此兩者の利害得失は之を次節に於て論述せんと欲す。

次に恒久的騰落は人爲的に調節すべきか。明治四十五年中米價が暴騰せし際に用ひし調節策も、今春の引上策も、又今回政府が米價調節調査會に諮問せし種々の調節案も皆一時的變動を

救濟せんとするに止まるのみにして、永久的騰落に關しては殆んど全く沒交渉のものなりと云はざるべからず。然りと雖も、米價の如き五千萬の同胞の總てに對して直接多大の影響を及ぼす一大問題をば單に一時的の見地より之を解決するのみを以て吾人は果して滿足することを得るか。世人は唯米價が單に例へば十六圓と云ふ一標準相場を維持するのみて此問題を解決し得たりとするか。

米價は昨年以來非常に低落せりと雖も、吾人は今日の米價が尚ほ歐米諸國の穀價に比して決して安價なりと云ふこと能はざるを記憶せざるべからず。昨年七月以來歐洲大戰の影響を蒙むりて小麥の市價は一時的に暴騰せるが、平時に於ける例へば倫敦の小麥市價は一石十圓内外にして、暴落せりと稱さるゝ昨今の我米價に比して尚ほ二割の低位に在り。之に加ふるに彼我富力、生活の程度並に一般物價標準の相違を顧慮せば、如何に我國民が穀物に對して高價を支拂つゝあるかは明かなりとす。先進國民より我國民が比較的に穀物に對して多くの支出を要することは取りも直さず其穫得に對して日本人が他國民よりも多くの勞力を費することを意味するものにして、一面に於ては他の貨物に對する我國民の收得力を直接減殺するの結果を呈し、又一面に於ては副食物を精選するの餘裕を收少せしめらるゝ爲めに間接に其勞働效程を殺がるゝに至るものなりとす。されば、若し我國民にして將來益々世界の經濟的競爭に參加して敢て人後に落つることなきを期せんと欲せば、現内閣の企圖せるが如き米價引上策を採用せずして、米價をして益々低落せしむるの方法を講ずべきに非ずや。一石十二圓は愚か十圓にも、否な八圓七圓にも出來得る限り之を引下ぐるの手段を案出すべきに非ずや。論者或は米價が此上益々下落せば、農民の困窮は之を一時問題外とするも、農業の衰微を來し、穀物の自給力を破壞するの虞れあるべしと云はんも、我米穀の日本特產物たるの事情は決して我國を英國化するが如きあるべからずして、却つて米作地並に農民の自然的淘汰、且つ耕作方法の改善及び經濟的肥料の發明を促進するの好結果を呈するに至るべし。

勿論米價を人爲的に下落せしむるとせば、之を徐々に行はざるべからざることは玆に喋々するを要せず。されど、之に對しては如何なる方法を用ゆべきか。是れ吾人が第十二節に於て略論せんと欲する所なり。

十一　一時的激變の豫防法

米價の一時的變動を豫防するには、農作の豫想に依りて米價が低落するの徵候を呈したるときに用ゆべき下落豫防策と、不作の豫想に依りて騰貴するの傾向を有するときの上騰豫防策との二種あるのみならず、此兩種の調節法には又直接的手段と間接的手段の別あり。直接的騰貴豫防策として多少有効なるものは、(一)米穀專賣、(二)米穀公賣、(三)官營米穀倉庫、及び(四)低利資金貸付等なるべきか。此等の方法は米價が既に下落せし後に之を吊上げんとする事後救濟策の如く農民の獨立自尊心を損ふものは非ずと雖も、然かも尚ほ其自發奮鬪の精心を阻害せしむるの缺點を有せり。加ふるに、專賣の如きは前述の如く數億圓の運用資金を要するのみならず、假りに農作が繼續するが如きことあらば、政府は巨額の損失を蒙むるに至るべくして到底我財政の許さゞる所なりとす。公賣、米穀倉庫、低利資金貸付の爲めには幾何の資本を要すべきかは到底正確に知ることを得ざれども、若し前文に於て吾人の算出せし如く、百萬石の增減は平均一石四十二錢の變動を來さすものなりとせば、本年の如く政府の假定せる最低標準相場即ち一石十四圓より二圓方下落して十二二

圓となれるを豫防する爲めには、約五百萬石を買上ぐるか、或は之に對して資金を貸付けざるべからざるを以て、尙ほ七八千萬圓の運轉資本を要すべければ、實行の困難なる點に於ては專賣と五十步百步たるの觀なき能はざるなり。

次に米價低落の間接的豫防策として擧ぐべきは(一)民營米券倉庫の奬勵、(二)地方金融の緩和、並に(三)米穀輸出の奬勵等を擧ぐべきか。民營米券倉庫は既に地方に設立せられ多少の成績を擧げつゝあるものなれば、中央政府又は地方廳が租稅の輕減、敷地の供給其他に就きて多少の便宜を與へ益々之が設立並に其使用を奬勵せば、農民の自重心を損せずして米價の暴落を豫防することを得べきか。又今日農民をして負債の重擔に堪へざらしめ產米を投賣せしむるの一原因たる地方金利の高率は政府が從來採り來りたる資金集中政策に依りて誘致せられたるものなるを以て、少くとも收穫期に於て米國東部諸銀行の實行せるが如き收穫資金の供給を我大都市の銀行に行はしめなば、米價暴落の氣勢を幾分か緩和することを得べし。次に米穀の輸出は米價が政府の假定せる平均相場即ち一石十六圓內外を維持する以上は其の望み少なけれど、最近に於けるが如く十一二圓の安價を維持するとせば、通例一石に就て一圓四五十錢の格下を有する劣等米は十圓以下に相當するを以て、米穀の輸出は必ずしも不可能なりとせざるなり。

翻つて米價暴騰の直接的豫防策としては專賣又は公賣を實行中なりとせば、在庫米を賣下げ尙ほ是れにて不足ならば、外米輸入專賣に依りて騰貴の趨勢を調和することを得べし。此種の豫防策は引上策が農民の自重心を損するが如く米穀購買者の自尊心を傷つくることあらねど、政府が多大の損害を蒙むることあるべければ、良策なりと云ふことを得ず。米券倉庫、低利貸付等の方法は米價の暴騰の豫防には全く無效なるか又は其の效力少きものなりとす。

次に間接的豫防策としては米穀輸入稅の撤廢代用品の奬勵等を擧ぐべきか。米穀輸入稅は前述の如く不作の年に米價暴騰の趨勢を助長するものなるのみならず、引上策としても其效力微弱なるを以て、斷然之を全廢すべきなり。又米穀供給の不足せる年に於て米價の激騰する一大原因は我國民が米價の高低に拘はらず主要食料は內地のみに產する白米たらざるべからざるとの迷信を抱けるが故なれば、半搗米、玄米、大麥、小麥、豆類等の有する優秀なる營養價値に關する智識を普及して、漸次少くとも國民の多數が平素より時々此種の穀物を代用品として用ゆる風習を馴致し、米穀の不作に際して何等の犧牲を感せずして此等代用品を常用することを得せしめば、其結果は單に米價の暴騰を未然に防ぎ、舊習を脫することを能はざる一部米食崇拜者の困窮を救ふのみに止まらずして、國民の活動力を之に依りて增進するを得るに至るべし。

十二　永久的調節法

吾人の觀る所に據れば、米價の永久的調節は其の漸落を目的とすべきなり。米價をして漸次低落せしむるには、一方に於て前項に述べたるが如く米穀の代用品の消費を奬勵し、以て米穀需用の增進を防ぎ、同時に一方に於て其生產を遞增せしめざるべからず。而して米產額を增加せしむるには、從前政府の採り來れる耕地整理の奬勵を繼續する以外に、肥料の改良、耕作法の改善を慫慂するのみならず、有利なる未墾地の開墾に便宜を與ふると同時に舊耕作地を淘汰し、優等地のみを使用し劣等地は畑或は他の目的に利用することを奬勵する等の數策あり。

論者或は米價を漸落せしめなば、左なきだに既に困窮せる農民は益々疲弊困憊に陷るに至るべしと云ふやも測り難けれど、吾人は農民を潤ほすものは高き米價に非ずして、高き利潤な

るを記憶せざるへからず。假令米價が二十圓臺を維持するも、生産費が若し十九圓に上らば、農家の得る所甚だ尠少なるべく、是れに反して假りに其市價十圓に下るとも生産費にして八圓内外ならば、農失の利潤は却つて市價の高きときよりも其率高しと云はざるべからず。而して肥料の改良、耕作法の改善、耕地整理、耕地の淘汰等は皆生産費の輕減を助長するものなるを以て、市價の漸落に依りて生ずる損失を之に依りて償ふことを得ずと云ふ能はざるなり。

加之、農家の所得は決して米作の利潤のみより成るものに非ずして、是れ以外に畑地より生ずる利潤、漁業、牧蓄、養蠶其他種々の副業の利益あるを以て、米作法の改善に依りて生ずる勞力の餘裕を益々是等副業に利用せしめ、假りに田地より生ずる利潤の減少するが如きことあらば之に依りて其損失を補塡せしむることを得さるに非ざらるか。

十三　結　言

要するに吾人は米價の變動を自然に任かせずして、之に對して國家が相當の救濟策を講ずべきものなりと信ず。而かも其救濟策たるや事發後に施すべきものたらずして、事前に米價の暴騰暴落を防遏するものならざるべからず。

米價の激變は氣候の激變に之を比することを得んか。薄氷一たび泉水を閉さば倉皇として寒を熱海に避け、梅雨漸やく歇まんとせば遽かに去つて箱根の客舍に涼を容るゝが如きは身體を鍛練して氣候の激變に對する抵抗力を養成する所以に非ず。而かも、我國の如き寒暖の差六七十度に上る國に於て春夏秋冬同一の衣服を用ゆるも亦生を衛るの法を得たりと云ふことを得ず。又氣溫が數十時間内に十數度の激變を來たしたるときに、衣服を改めざるが如きわらば、白柄組式の人にあらざるものは天刑を蒙むることなしとせざるなり。吾人が四季其服裝を異にし氣溫の激變に際して相當の手段を講ずるは是れ取りも直さず、吾人が氣候に對して一種の調節手段を採れるに外ならず。若し果して然らば米價の激變に對しても吾人は何等かの救濟策を講せずして可ならんや。人或は米價を人爲的に左右することを得ざるは尙ほ氣溫を人爲的に調節すること能はざるに類せずやと問はん。されど吾人は答へて曰はん。空氣の溫度夫れ自身を左右し得ざるは事實なるも、人の身體に對して空氣が何等かの影響を及ぼすは人が直接其空氣に觸れたるときなるを以て、吾人は家屋並に衣服の利用に依りて身體に及ぼす空氣の作用を調節するものなりと。然るに米價は直接吾人に影響を及ぼすものなるを以て、其作用は恰かも家屋衣服を通じて吾人の身體に影響を及ぼす空氣の作用の如し。若し果して然らば、此空氣の作用を人爲的に調節し得る以上、米價をも人爲的に左右し得ざるの理何處にか在る。前者が物理の原則に違反せざるものなりとせば、後者も亦之に逆行せるものなりと云ふこと能はざるに非ずや。而かも吾人は空氣の作用を調節するに當りて惰民の風習を模倣すへからざると同じく、米價の調節にも現内閣の實行し、又慫慂せんとせるが如き避暑避寒的の方策を用ゆべからず。第十一節に於て吾人の略說推擧せし調節策は其效力熱海の暖風、箱根の冷味に及ばざる所ありと雖も、而かも尙ほ國民をして經濟界の風雨に對する抵抗力を增長せしむると同時に其天災地變を未然に防遏するの效力を有するものなるを信ず。

更に米價の永久的調節としては寧ろ其の漸落を理想とすべきなり。物價を引下げんと欲せずして却つて之を引上げんとするは世界共通の貨物たる小麥の性質と我國の特産物たる米穀の性質とを混同せるに基づく誤れる一非社會政策たるに過きざるなり。（完）

附言。紙面の都合と原稿〆切の切迫との爲め政府が米價調節調査會に提出せし議案に論及すること能はざりしを遺憾とす。此議案に對しては他日機會を得て論評を加へんと欲す。